

No. 32

2月号

令和7年
2025・1・20



日立市視聴覚センター通信
みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行
日立市視聴覚センター
〒317-0073
日立市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

参考資料：『地図中心』572号 2020年「無賃電車として親しまれた鉱山電車の軌跡」 綿引逸雄

日立鉱山専用電気鉄道

特集

愛されて50年、「無賃電車」が走る

今から60年以上前に、「無賃電車」として、日立市民に親しまれ、日立の街なかを走っていた鉄道がありました。その名は、「日立鉱山専用電気鉄道」、略して「鉱山電車」です。

明治38年(1905)、赤沢銅山を買収し、日立鉱山経営に乗り出した久原房之助は、限りある鉱石に対し、他鉱山からの買鉱政策を立て、杉室にあった大雄院跡地に中央精錬所を、同41年に(1908)起工し、操業を開始しました。

並行して進めたのが、常磐線(同30年開通)の助川駅(現・日立駅)から、5.4km先にある大雄院の精錬所まで、鉱石などを運搬するための専用電気鉄道の建設です。

当初は貨物輸送専用でしたが、まだ鉄道建設中の10月に逓信大臣宛てに、「便乗許可願」を出すことで、翌11月には認可され開通します。大正時代初めには旅客専用車の運行も行われるようになり、物資と人員の移送を担いました。



鉱山電車軌道「日立市助川町一般平面図」(昭和10年、1:25000)に加筆



出典：『ふるさとの思い出 写真集日立』1980年国書刊行

旅客運賃が無料の「無賃電車」は、日立鉱山で働く従業員以外に、通勤や通学に広く利用され、全国的にみても珍しい鉄道として親しまれました。

大正初期から第一次世界大戦時にかけての鉱山隆盛時や、鉱山の増産活動が強力に進められ

ていた昭和16年(1941)以降などは、昼夜を問わず運転が行われます。戦後も活躍を続けましたが、鉱山の合理化推進により、同35年(1960)5月末に人員輸送を、10月には貨物輸送も終了し、半世紀に渡り走り続けた鉱山電車は廃止となりました。

当センターが保管する番組『日立市制10周年(昭和24年の日立市)』(32分)には、数少ない貴重な映像として撮影した鉱山電車の姿を確認することができ、おすすめです。

現在、本市と日立製作所は、次世代未来都市の実現に向けた共創プロジェクトの一環として、次世代モビリティの実証実験を試みています。自動運転をはじめ多様な移動手段による未来社会を描いています。



日立鉱山専用電気鉄道、50年の歩み

和暦	西暦	内容
明治 38	1905	久原房之助、赤沢銅山を買収、日立鉱山を経営
41	1908	5/18 逓信大臣後藤新平に出願、8/19 認可、10/8 便乗車の連結による無賃乗車の認可願を逓信大臣に提出(11/13 認可)、10/27 試運転
大正 3	1914	鉱山最盛期、15分に1本の間隔で運転
4	1915	煙害対策として世界一高い大煙突を建設
昭和 20	1945	7月、空襲と艦砲射撃により戦災、復旧
32	1957	4月記録、1日の乗降客平均13,083人
33	1958	本格的な運搬系統の合理化計画の推進
34	1959	石原裕次郎主演日活映画『今日に生きる』日立ロケ
35	1960	廃線
56	1981	76年間にわたる採掘を終えて閉山

1945 終戦

●令和6年度新収蔵 DVD 作品

命をかけて環境破壊と闘う若者たちの魂が奇跡を生んだ!

ある町の高い煙突

監督:村松克弥 原作:新田次郎 出演者:井手麻渡・渡辺大・小島梨里杏・吉川晃司・仲代達矢

公開:2019年

時間:130分

貸出番号:1201296

日立鉱山創業時に地域と企業が煙害を克服しながら共存共栄を目指す姿を描いた映画作品。100年以上も前に環境保護や地域との共生といった現在のCSR(企業の社会的責任)に通じる実話を映画化した感動作です。

本作品は上映制限があり、当センター内での上映、または出前上映のみの利用です。個人利用は、市内各図書館でできます。

今月の
おすすめ
後藤

